

お告げのマリア修道会

まごころ会

2023年9月
Tel.095-846-8300



QRコードから
アクセスして
下さい

『わたしは主のはしのためです。』

お言葉どおり、この身になりますように。』

歩いて巡る。歩みを振り返る。

「ド・ロさまミュージアム」

ド・ロ神父様が建てた建物は、現在、①旧ラテン神学校②

出津教会③救助院跡④いわし網工場跡（ド・ロ神父記念館）

⑤大野教会⑥カトリック長崎司教館が残っており、文化財として指定されています。

今回、「ド・ロさまミュージアム」の拠点として整備している建物は大野岳の開墾地に「収納小屋兼馬小屋」大平作業所として作られました。長い間、風雨にさらされて、朽ち果てようとしていました。しかし、この度、「異国の地で神の慈愛を実践し続けたド・ロ神父の物語を分かち合い、未来へ続くフィールド・ミュージアム」の主要な建物として整備しました。この事業は、これから数年をかけて形作って行く予定ですが、この建物の完成を記念して、10月27日から29日にかけて一般社団法人ISHIZUEを中心にオープニングイベントを準備中です。

ド・ロ神父様は、1868年に来日してから、46年間、一度もふるさとフランスに帰ることなく、「人には良いものを」とご自分のすべてを日本の教会、特に外海地方のために捧げてくださいました。

この機会に、ド・ロ神父様の人生の歩みに触れ、ド・ロ神父様を通して、私たちが神様からいただいたお恵みとともに味わってみませんか。



大平作業所跡 外面（道路側）



大平作業所跡 内部



大平作業所跡 外面（茶畑側）

ド・ロさまと十字修道院

明治7(1874)年、7月、長崎に沖合にある伊王島で赤痢が発生しました。それは、浦上にも飛び火しました。その時、ド・ロ神父様はこれまでの経験を活かして、救護活動を始めました。この活動を手伝ったのは、「旅」(浦上四番崩れ)から帰った岩永マキ(26)、守山マツ(31) 深堀ワサ(26) 片岡ワイ(29)の4人でした。4人は、家族に病気を移さないために高木仙右衛門の納屋に住みました。後に「女部屋」と呼ばれるようになり、お告げのマリア修道会十字修道院となりました。同じように青年たちもド・ロ神父様に協力しました。

ド・ロ神父様は、マキや青年たちに病人の扱い方、薬剤の調合、患者の隔離と予防措置、消毒の方法などを教えました。彼らは多くの困難の中にありながら、必死に働き、死亡率はわずか4%にとどまりました。当時の赤痢による死亡率は30~40%でした。ド・ロ神父様も赤痢に感染しましたが「神と人とのためならどんな苦しみもうけましょう」と平然としていたそうです。

11月にやっと赤痢が終息しましたが、次は、蔭の尾島で天然痘が流行しました。ド・ロ神父様と4人の乙女、青年たちは一日も早い終息のために惜しみなく働きました。ようやく、天然痘が終息した時、マキらは天然痘で両親を亡くしたタケと言う孤児を浦上に一緒に連れて帰りました。これが、現在まで続く浦上養育院の始まりです。



「ド・ロさま年表」

1840年3月26日

フランス・ウォスロールに
生まれる

1865年(25歳)

司祭叙階

1867年(27歳)

パリ外国宣教会に入会

1868年4月19日

プチジャン司教とともに
日本へ出発

同年6月7日、長崎に上陸

1879年(39歳)

外海地区主任司祭となる

1914年11月7日(74歳)

神のみもとに召され、本人
の希望により、外海の墓地
に葬られた。

ド・ロさまと出津修道院

明治12(1879)年、ド・ロ神父様は、外海地区の主任司祭を命ぜられて、出津に赴任しました。この地区の厳しい環境、貧しい生活を目の当たりにし人々に仕事を授け、自立する力を身に着けさせようと隣人愛に燃えたド・ロ神父様は、すぐに授産施設を設けて、織物、染色などの技術を教えました。

明治13年、これらの事業を永く維持し、経営していくためには女子修道会が必要と考えたド・ロ神父様は、プチジャン司教様にその必要性を訴え、許可を求めました。大石シゲを十字会に派遣して孤児教育や修道院の在り方を学ばせ、聖ヨゼフ修道院と伝道婦養成所を創立しました。聖ヨゼフ修道院が現在のお告げのマリア修道会出津修道院です。

明治16年には、旧庄屋敷を買って「救助院」(聖ヨゼフの仕事部屋)を開設しました。ここでは、製粉、裁縫、パン・マカロニ作り、搾油などの技術が教えられ、日記、算術などの学業も授けられました。救助院は2階建てで、1階はソーメン、パン、しょうゆ、染め物などの工場、2階は織物工場兼修道院でした。ソーメンは「至風木ソーメン」と名付けられ外部で販売されました。現在、「ド・ロさまソーメン」として夕陽が丘そとめ道の駅等で買うことができます。

ド・ロ神父様は、その後も農地の開墾、漁業の発展、診療所の開設、教会建築、道路の整備などなど、明治44年に大浦に移って養生するまで32年間、いつも先頭に立って人々のために働きました。